

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	25020
課題名	乳癌肺転移巣における免疫組織化学的解析による予後因子の検討
研究期間	西暦 2025 年 5 月 26 日（実施許可日） ～ 2030 年 3 月 31 日
研究の対象	当院で 2000 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までの期間に当院で乳癌の手術が施行され、その後に肺転移が出現した症例に対して肺切除術が施行された患者さんが対象です。
利用する試料・情報の種類	☒ 診療情報（詳細：患者の年齢、性別、BMI、転移巣の組織型、術後の生存期間等） ☒ 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： 乳腺、肺 ） ☐ 血液 ☐ その他（手術で摘出した組織： ） 利用予定日（開始日：実施許可日から 1 ヶ月後）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	近年、乳癌治療の進歩により予後は改善されつつありますが、肺転移をきたした症例では未だに予後不良です。研究者らは、乳癌肺転移に対する外科的切除の有効性と予後因子を明らかにした臨床研究を行っており、本研究はその続編として位置付けられます。肺転移巣における免疫微小環境は、腫瘍の進展・転移・治療応答に関与することが知られています。特に T 細胞やマクロファージ、免疫チェックポイント分子の発現状況は、免疫逃避機構や治療抵抗性の一因となる可能性があります。本研究では、免疫組織化学を用いて乳癌肺転移巣の免疫環境を評価し、予後との関連性を明らかにすることが目的です。
研究の方法	染色標本を用いることで、臨床因子（無再発生存期間、腫瘍径、転移個数など）と各マーカーの相関を解析します。予後との関連性は統計解析ソフトを用いて検討します。
その他	特になし
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所在地：旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号

	電話：0166-69-3290 研究責任者：旭川医科大学病院 病理学講座 免疫病理分野 大学院生 吉野 流世
--	---